街道を歩く

東海道東海道遠江・05島田一金谷一小夜の中山峠

金谷宿　島田宿より1里

本陣3、脇本陣1、問屋1、旅籠51。町並み16町24間
河原町に川会所など川越しの施設があった。川越しで
にぎわった宿。秀吉の家臣中村一氏が上流の瀬を改修。
いわゆる"天正の瀬直し"で瀬が東に変わり人が住む
ようになった。
旅人は箱根を越えると"山祝い"したと同様大井川を
越えると渡河を祝って　"川祝い"をしたという。

久延寺と夜泣き石

寺は関ヶ原合戦の時山之内一豊が茶亭を建て家康を
もてなした跡。本堂の前には家康お手植えの五葉松
がある。本堂絵馬は山中鹿之助の馬上姿。鹿之助は
この辺りで武術を練る。
境内には芭蕉句碑、橘為仲朝臣の歌がある。
せきげんいきょう
寺は滝沢馬琴の小説、「石言遺響」の舞台。古くからの
話を元に創作。身篭った母親が盗賊に殺され、幸い
子供は助かったが泣き声が小さかったので傍の石が
代わりに泣き救いを求めた。その子は久延寺の住職
に水飴で育てられ成人し刀の研師なった。刃のこぼれ
から盗賊を見つけ仇討ちをしたという。
伝えられる話はいくつかある。夜泣き石は寺から西
から西1．6km遭ったが今は国道沿いに移される。

宅円庵　日本左衛門首塚

河竹黙阿弥作「青砥稿花紅彩画」、白波五人男の
首領、日本駄右衛門の墓がある。当時日本左衛門
といわれた 大盗賊浜島庄兵衛をモデルにしたもの。
金谷藩7里飛脚の浜島富右衛門の倅。若い内に勘当され
徒党を組み、天領、藩領、旗本領など行政の入り組んだ
東海道を荒らしていた。自らは義賊を名乗っていたが、彼の
名をかたった殺人強盗が頻発したので当局から手配され、
追われて延享4年((1747)京都奉行所に自首、江戸で斬首、
見付の宿で晒し首になった。その首を恋人の「奴の小まん」
(三好ゆき)が盗んでここに葬ったという。
墓に辞世句 "月のでるあたりを阿弥陀の浄土かな"

関川庵

この寺に吉三地蔵尊が安置されている。
吉三は小野川吉三郎といい、放火の罪で
処刑された八百屋お七の恋人。お七の亡き
あと僧になり放浪、島田で亡くなったという。
江戸の僧が修行の途次ここを訪れ話を聞き
自分の父とわかり墓を建てたという。

朝顔の松

浄瑠璃、芝居で知られる朝顔日記
芸州(広島)の家老の娘深雪は夫を追って
旅に出る。目が見えなくなり朝顔と名乗る
大井川まで来たが川留めで会えず川に
身投げしたが運よく助けられ、目が見え
るようになり最初に見えたのがこの松と
いう。お堂の前に巌谷小波句碑
"爪音は松に聞けやと春の風"

大井川川越え遺跡

復元されている建物は、川会所、川越え人足の
待機する番屋、仲間の宿、川札を換金する札場
"箱根8里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川"
と歌われた東海道の最大の難所であった。川会所
が出来るのは元禄9年(1696)であったがそれまでも
人足がいて渡賃はその都度きめ取っていた。
人足は島田金谷とも350人と決められていたが嘉永
年間(1848-53)には647人数えたという。
渡賃は乗る物、肩車、蓮台の種類により、また股通、
脇通、などの水量により違っていた。
旅人の難儀は川留めであった。文政期(1818-29)に
年間15回50日前後。慶応4年(1868)には28日の川留
記録がある。川会所前芭蕉句碑
"さみだれの空吹きおとせ大井川"
[弥次・喜多]侍になりすまし渡渉賃をかけあう。
刀を見せろ云われると柱に当たり鞘の先が折れ
見破られる。改めて折衝、蓮台に乗って渡る。
"出来合のなまくら武士のしるしとて
かたなのさきの折れてはづかし"
"蓮台にのりしはけつく地獄にて
おりたところがほんの極楽"

中納言宗行卿詩碑 日野俊基卿歌碑

中納言藤原宗行は"承久の変"で捕らえられ鎌倉へ
護送中、ここに泊まり柱に詩を書いた後殺された。
近くに墓がある。日野俊基は100年後の"正中の変"
で鎌倉へ護送中ここで詠む。
"昔南陽県菊水　汲下流而延齢　今東海道菊水
宿西岸而失命"
"古もかかるためしをきく川のおなじ流れに
身をやしずめん"

諏訪原城址

永禄12年(1569)信玄が馬場美濃守氏勝に築城させる。
その頃は金谷城。天正元年(1573)武田勝頼が徳川方の
掛川城、高天神城攻略の拠点として同じ馬場美濃守に
普請させ、諏訪原城とした。(現存する遺構はこの頃のもの)
天正2年(1574)高天神城を攻略するが翌年長篠の戦い
破れ、諏訪原城も攻撃され落城。天正3年8月徳川が入城
牧野城となる。南北580m、東西1454m、92ヘクタール。
東側は金谷、藤枝、焼津が一望できる断崖の山城。
曲輪、土塁、本丸跡など残る。

鎧塚

建武2年(1335)北条高時の遺児、時行きが起こした
"中先代の乱"の時時行の家来名越邦時が今川範国
に討たれた場所。乱は足利尊氏によって治まる。